

ご寄付に関するお問い合わせ

日本財団 寄付専用窓口

 **0120-533-236**
受付時間 | 9:00-17:00 (月～金 / 土日祝日を除く)
電話

 **kifu@ps.nippon-foundation.or.jp**
メール



2024年度もたくさんの
あたたかなご寄付をありがとうございました。



皆様から頂いた寄付金か
子ども達や被災地など
各地で役立っています
2025年度もどうぞ宜しく
お願い致します
日本財団ドネーション課
部長 木田 悟史

キフノ チカラ

K I F U N O C H I K A R A
2 0 2 4

日本財団
寄付事業活動報告書



2024年度もたくさんのあたたかなご寄付を ありがとうございました。

2024年度も日本財団にあたたかなお気持ちをお寄せいただき、誠にありがとうございました。皆さまのご寄付は、子どもたちや被災地の方々など、サポートを必要としている数々の現場で活用されています。

2024年度の活動報告を数字と現場からのレポートでお届けします。



数字でみる 2024 年度



災害復興支援

275 団体

能登半島被災地支援に取り組む延べ275団体を支援しました。



子ども 第三の居場所

164 件

ご寄付を活用して164件の子どもたちの体験活動を支援しました。



LOVE POCKET FUND

約4,500万円

2020年立ち上げ以来、累計で約8億円を超えるご寄付をお寄せいただきました。



夢の奨学金

116 名

2024年度は28名(累計116名)の奨学生を支援、奨学生の輪が広がっています。



日本財団 チャリティー自販機

266 台

2024年度新規設置台数は266台。日本全国で8,231台のチャリティー自販機が設置されています。



TOOTH FAIRY

1,373 件

2024年度は1,373件の金属提供をいただきました。リサイクル金額は139,499,617円に。

キフノ チカラ

KIFUNOCHIKARA

2024

2024年度活動報告

災害復興支援特別基金 03

LOVE POCKET FUND 04

子ども第三の居場所 05

難病の子どもとその家族の支援 06

夢の奨学金 07

海と日本PROJECT 08

HEROs FUND 09

特集 寄付者の声

チャリティー自販機 10

TOOTH FAIRY 11

収支報告 12

ご寄付・ご支援のお願い 13-14

災害復興支援 特別基金

災害復興支援特別基金

被災地への迅速な緊急支援を
実施するために

Pick UP!

令和6年能登半島地震支援

令和6年能登半島地震の被災地、志賀町に設置された個室銭湯「箱湯」は、被災者の「個」を尊重する支援の新たな形として取り組みました。集団入浴が一般的な避難所において、箱湯は家族風呂、個室風呂、ペット用シャワー室の3タイプを用意し、プライバシーを重視した入浴環境を提供。被災者の「我慢」が当たり前とされる状況に疑問を呈し、入浴時間だけでもリラックスしてほし

いという思いから個室にこだわりました。

日本財団の支援により、ヒノキを使った浴室を設置。運営は地元住民が行い、利用者の声に耳を傾けながら改善を重ねました。利用者は「人目を気にせず寛げる」と好評で、子連れやペット連れ、手術跡などによって集団入浴に難がある人など、多様なニーズに応えました。



Voice 担当者の声



日本財団 災害対策事業部
樋口裕司

これまで日本の被災地では『集団』を前提に支援が行われてきました。しかし、集団行動・集団生活による制約やストレスが被災者の心身の健康に悪影響を与えることもあります。『箱湯』は個々のニーズに寄り添う支援を実践したという点で、被災者支援の在り方を問う議論に一石を投じたと思います。今後も『集団』だけでなく、『個』にも寄り添った支援の在り方を模索していきたいと考えています。

WEB site

詳細はWEBサイトに
掲載しています



LOVE POCKET FUND

LOVE POCKET FUND

「生きにくさ」を抱えている女性や
子どもを中心とした支援、
高齢者や地方創生の支援のために

Pick UP!

一般社団法人

日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会

聴覚障害者は災害時、情報の遅延や孤立により生活再建が困難になることが少なくありません。日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会は、東日本大震災の経験から、被災地の聴覚障害者支援の必要性を痛感しました。能登半島地震では、日本財団からの支援を受け、被災地の聴覚障害者や支援者への訪問支援を実施。継続的なメンタルケアの必要性を確認し、特に支援者へのケアの重要性を再認識しました。

同協会は、被災者のニーズを把握し、手話でコミュニケーションができる聴覚障害の特性を理解したソーシャルワーカーの育成にも力を入れています。災害ソーシャルワーカーの養成や地域との連携も視野に入れ、今後の災害に備えた支援体制の構築を目指しています。復興の道は長く、多くの課題が残りますが、「立ち尽くす実践」をモットーに、被災者に寄り添い、必要な支援を続けていきます。



Voice 担当者の声



日本財団 ドネーション事業部
秋山浩器

LOVE POCKET FUNDを通じて、多くの方に能登半島支援のためのご寄付をいただきました。新しい地図のお三方、そしてご寄付をいただいた皆様に心より御礼申し上げます。今後も被災地で助けを求めている方々に寄り添い、必要な支援を責任を持って実施してまいります。

WEB site

詳細はWEBサイトに
掲載しています



子ども第三の居場所

子ども第三の居場所

様々な困難に直面する子どもたちが、
安心して過ごせる居場所で
「生き抜く力」を育むために

Pick UP!

一般社団法人 Apple Base

日本財団は、中外製薬株式会社から5,000万円のご寄付をいただき、一般社団法人Apple Baseへの支援を決定し、栃木県那須郡に県内で8拠点目になる「子ども第三の居場所」を開設しました。

「Apple Park」は、小学生を対象とした放課後の日常的な居場所として、学習支援や生活支援を提供し、子どもたちが社会を生き抜く力を育むことを目指しています。

親子でゆっくり過ごせる図書室や、全国の講師とつながるオンライン学習スペースも完備されていて、学校では得られない体験・経験の場となることが期待されています。

運営団体のApple Baseは、2023年に那須塩原市に開設した施設での経験を活かし、子どもたちの小さな変化やSOSを見逃さない、安心できる環境づくりを目指しています。



Voice 支援現場からの声



一般社団法人 Apple Base代表理事
磯翔さん

本施設は、元保育園の改修のため調理経験ができる給食室や広いホール、遊具を備えた広場が特徴です。地域の観光業に従事する家庭の支援も視野に入れ、多様な子どもたちが自由に交流できる場を目指します。地域の交流も盛んで、イベントやお祭りなど地域や行政と連携することで、大きな広がりを見せています。

WEB site

詳細はWEBサイトに
掲載しています



難病の子どもと その家族の支援

難病児支援

難病を抱える子どもと
家族の社会的孤立を防ぐために

Pick UP!

認定NPO法人

芸術と遊び創造協会

難病の子どもたちに遊びの機会を届けたいと始まった「あそびのむし」プロジェクトは、認定NPO法人芸術と遊び創造協会と日本財団の共同で開発されたおもちゃセットを全国の病院や施設に寄贈する取り組みです。療育を目的とせず、子どもたちがただ夢中になって遊ぶことで、豊かな心と生きる力を育むことを目的としています。

このプロジェクトでは、子どもたちの純粋な楽しみを追求し、専門家や家族の意見を取り入れながら、五感を使って楽しめる多様なおもちゃを選定しました。また、オンライン研修や交流会を通じて、病院や施設のスタッフが遊びの重要性を理解し、子どもたちと一緒に楽しむ環境づくりを支援しています。

難病の子どもたちとその家族が孤立することなく、地域社会と繋がり、共に成長できるインクルーシブな社会の実現を目指します。



Voice 支援現場からの声



認定NPO法人芸術と遊び創造協会
遠藤基子さん

貴重な機会を頂き、寄贈先の方々に良質なおもちゃをお届けすることが出来ました。寄贈先からは「子どもたち、スタッフの遊び方にバリエーションが増えた」「おもちゃは、子どもたちの心の扉をノックする役割を果たしてくれている」という声がありました。我々は今後も遊び方研修などの機会を提供し、「あそびのむし」の繋がりを深めていきます。

WEB site

詳細はWEBサイトに
掲載しています



夢の奨学金

夢の奨学金

社会的養護の経験のある若者の

未来を諦めない、

その強い意思に応えるために

Pick UP!

「ソーシャル・スキル・トレーニング」講習会の実施

大阪府内の児童福祉施設に入所中や里親家庭の高校生を対象としたソーシャル・スキル・トレーニング(SST)に「日本財団夢の奨学金」奨学生が参加し、その後奨学生同士の親睦を深める交流会が開催されました。

SSTの「身だしなみセミナー」では、スーツの着こなし、ネクタイの結び方、スキンケアなど、実践的な内容が指導され、「おしゃれと身だしなみの違いを理解できた」「プロの技で自信がついた」といった声が上がりました。



午後の交流会では、奨学生が企画したゲームや懇談で交流を促進。笑いの絶えない和やかな雰囲気の中、お互いを知り絆を深めました。

SSTへの参加や交流会開催は、奨学生が社会で自立するためのスキルを習得し、将来への不安を解消することを目的としています。参加者たちにとって、社会で活躍するための自信と勇気になることを願っています。

※SSTとは…一人で生活を営んでいく上で必要な知識や社会常識などを学び、生活技能を体得することを目的としたトレーニング



Voice 担当者の声



日本財団 公益事業部 子ども支援チーム
平林真理(左)/ 吐師朝美(右)

社会的養護の子どもは、原則として18歳を迎えると児童養護施設や里親家庭など、それまで暮らしていた場所から出て行くことが求められます。「夢の奨学金」は、経済的支援だけでなく、ソーシャルワーカーが寄り添い、交流会などで横のつながりを持てることが特徴です。皆さまの温かい気持ちによって奨学生の夢が支えられています。

WEB site

詳細はWEBサイトに
掲載しています

海と日本
PROJECT

海と日本PROJECT

私たちの海の現状を伝え、

海の未来へ繋いでいくために

Pick UP!

「標津サケパクッ!フェス」開催

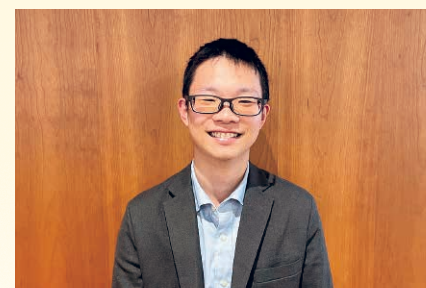
北海道標津町で「標津サケパクッ!フェス」を開催。サケを題材に「食べる」と「学ぶ・体験する」をテーマにしたイベントで、サケの現状を伝えることを目的としたものです。「食べる」の主役は、サケをはじめ標津町で水揚げされた新鮮な魚介類。標津の魚介類たっぷりの「浜ピザ」や「ビッグサーモンフライバーガー」などが提供され、地元の参加者にも大好評でした。

「学ぶ・体験する」の主役は、標津町を象徴する魚・サケです。サケの遡上観察会では、遡上するサケがまばらであり、サケの遡上が減少傾向にある現状を目の当たりにしました。また、人工授精×解剖見学実習が行われ、サケの生態系や人との関わりも学ぶことができました。

今回のイベントでは、標津のサケを取り巻く現状を知ってもらい、日本の漁業や海洋環境を考えるきっかけづくりを目的としました。



Voice 担当者の声



日本財団 海洋事業部
西井諒

北海道を代表するプロ野球チームである日本ハムファイターズ様から、「北海道の子ども達に海に触れるきっかけを」とご寄付をいただき、本事業を実施しました。地元の漁師さんの屋台を高校生が手伝うなど、地域が一丸となった取り組みとなり、子どものみならず住民、観光客も含めて多くの人が海に目を向けるきっかけとなりました。

WEB site

詳細はWEBサイトに
掲載しています



HEROs FUND

HEROs FUND

スポーツの持つ力を活かして

ソーシャルイノベーションを

Pick UP!

川崎フロンターレ選手会

川崎フロンターレは、試合会場での使い捨てプラスチックごみ削減に取り組んでいます。川崎市立橘高校と連携した取り組みも実施。高校生たちは事前にごみ問題について学び、実際に試合会場で分別ボランティアとごみの調査も。その結果を踏まえて、フロンターレ担当者へ向け、ごみ袋配布やリサイクルステーション設置など、多岐にわたるごみ削減の提言を行いました。



フロンターレ担当者は高校生の柔軟な発想を高く評価。高校生たちは、自分たちのアイデアが社会に貢献できる可能性に喜びを感じ、環境問題への意識を高めました。

これらの取り組みにより、若者の声が社会課題解決に貢献することを示し、スポーツ界における持続可能な社会の実現を促進を目指します。



Voice 担当者の声



日本財団 経営企画広報部 HERO'sチーム
藤田滋

地球規模で環境問題が急激に深刻化しており、ここ数年が改善のラストチャンスと言われています。実際に、猛暑や雪不足で試合や練習が困難になるケースが生じるなど、スポーツ界への影響も大きくなりつつあります。将来の子どもたちにスポーツを楽しめる環境を残すため、アスリートの皆さんの発信力を生かして、使い捨てプラごみゼロを訴え、実践していきたいと考えています。

WEB site

詳細はWEBサイトに
掲載しています

KIFUNO
CHIKARA日本財団
チャリティー自販機

WEB site

詳細はWEBサイトに
掲載しています



Voice 設置者からの声

アマノ株式会社

広報部広報課 課長 竹本彩様

導入経緯

2022年、当社の創立90周年事業の一環として、社会貢献活動に寄与できる仕組みを模索する中で、チャリティー自販機の導入を決定しました。この仕組みを活用することで、社員が日常業務の中で無理なく社会貢献に参加できる環境を整えることを目指しています。支援先を選択できることも、導入を決定した理由の一つです。



チャリティー自販機とは

ドリンクを買うだけでできる、
社会貢献があります

導入後の反応

まずは試験的に5台を導入し、全国の拠点の協力を得ながら徐々に展開を進めた結果、現在では30台のチャリティー自販機が稼働しています。社員からは「気軽に社会貢献できる点が魅力」という声も寄せられており、この取り組みを通じて社員一人ひとりが社会課題を意識するきっかけになればと考えています。



ロイヤルパークホテル

(左) 購買業務室
アシスタントマネージャー
池田伶様
(右) 総合企画部
総務課 マネージャー
大森翔平様



導入経緯

当ホテルでは、SDGs委員会を設置し活動を行っております。従業員にも「気軽に社会貢献できる機会を増やしたい」という想いから、ホテル館内にチャリティー自販機の導入をいたしました。商品購入を通じて、誰でも手軽に支援活動に参加できる仕組みを作り、地域社会への貢献を目指しております。

導入後の反応

チャリティー自販機の設置により、ドリンクを購入するだけで気軽に社会貢献ができるようになりました。従業員からも「毎日社会貢献ができて嬉しい」「気軽に支援活動ができる」と好評で、2台目を増設いたしました。チャリティー自販機を通じて気軽に、そして日常的に社会貢献ができることを嬉しく思います。

敷島住宅株式会社

(左) 本社営業課・課長
中村克史様
(右) 京都営業課
工藤杏佳様



導入経緯

弊社では、事業所や部署の垣根を越えた複数の社内プロジェクトが存在し、募金型自動販売機はCSプロジェクトの取り組みとして2015年にCSR活動の一環として導入されました。弊社の分譲地ではお客様や現場で働く職人さんのために自動販売機を設置しております。その自動販売機をさらに社会貢献につなげられないかと考えました。

導入後の反応

2025年現在、弊社でこの活動は10年を迎えました。この活動は「夢の貯金箱」として継続し、分譲地には飲料メーカー様のお力を借りながら、現在も7台の募金型自動販売機が設置されています。自動販売機で購入する際に、購入された方がふとこの活動を見知っていただき、助け合いの輪を広げられることを小さな祈りとして願っております。



Voice 医師の声

松本 信久先生

松本歯科医院(熊本県天草市)

難病の子どもたちとそのご家族のためのサマーキャンプへの支援を行っている「TOOTH FAIRY」プロジェクト。歯科撤去金属によるご支援だけでなく、歯科検診ボランティアも。熊本県で開催された難病を抱える子どもたちとそのご家族のためのキャンプ「がんばれ共和国」では、熊本県歯科医師会で副会長をされていた松本信久先生にご参加いただきました。



先生からの反応

TOOTH FAIRYについては歯科医院からいただいた撤去冠をリサイクルし、子どもたちへの支援に役立てる為の資金になるという事くらいしか理解していませんでした。偶然、メールサービスの中に阿蘇地区で行われるサマーキャンプで障がいをお持ちの方の口腔チェックボランティアの事が記載してありました。そして、かねてより一緒に障がい者歯科治療に携わってきた歯科医師3名、歯科衛生士2名とこのサマーキャンプに参加してきました。TOOTH FAIRYへの支援が有効に利用されている事が実感でき、このような活動が各地区で行われるとインクルーシブな社会の実現につながると思われます。

大塚 和歌子先生

わかオーラルヘルスケアクリニック(秋田県能代市)

秋田県能代市にて、わかオーラルヘルスケアクリニックを営んでいる大塚和歌子先生。歯のケアを主体とした歯科医院として、地元の方たちから愛されています。また、大塚先生は秋田県歯科医師会の「トゥースレンジャー」として、オーラルフレイル予防にも取り組んでいます。そんな大塚先生は、開業当初からTOOTH FAIRYに加入し、これまでに20件以上の金属を提供してくださっています。



先生からの反応

開業から10年「TOOTH FAIRYプロジェクト」に参加しています。患者さんから脱離した金属を預かった時に「TOOTH FAIRY」のことをお話しすると、みなさん喜んで提供して下さいます。後日受領の葉書が届く時に、提供して下さった方のお名前も書いていただくようお願いしています。次回来院時その葉書をお渡しすると、ものすごく喜んで下さいます。誰もが自分の口に入っていたものが脱離したなどということはものすごくショックな事です。その悲しい気持ちを「TOOTH FAIRY」はそっと包んでくれるのではないかと思います。これからも社会貢献の一環として微力ですがお力になればと思っています。当院の患者さん達のやさしいお気持ちと一緒に送ります。

寄付金収支報告

(2024.4.1～2025.3.31)

(単位:円)

基金名	寄付額	支出額	備考
日本財団子どもサポート基金	281,956,621	351,415,194	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:151,817,969
日本財団子どもサポートプロジェクト子ども第三の居場所基金	29,549,626	384,161,174	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:1,224,464
日本財団子どもサポートプロジェクト難病児支援基金	30,715,476	1,534,812	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:721,360
日本財団子どもサポートプロジェクト夢の奨学金基金	28,436,000	28,506,236	
災害復興支援特別基金	355,060,930	612,868,638	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:70,700,598
LOVE POCKET FUND	44,682,912	138,883,762	
HERO's FUND	27,440,530	16,017,328	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:18,593,354
海と日本プロジェクト推進基金	43,087,515	64,480,698	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:1,707,554
バリアフリー基金	8,333,889	19,876	
夢の貯金箱	83,920,437	286,936,579	うち日本財団チャリティー自販機からの入金:44,122,787
TOOTH FAIRY	142,301,594	107,048,598	うち換金手数料:2,462,777
遺贈基金	463,780,059	203,363,040	うち遺留分侵害請求額等を含む
ウクライナ避難民支援基金	262,627	41,646,271	
社会貢献ボートレース基金	15,000,000	15,000,000	
メットライフ基金	0	21,600,000	
インパール平和資料館支援事業基金	0	523,713	
トンガ救援基金	0	33,661,683	
The Nippon Foundation-GEBCO Alumni Fund	0	17,041,200	
合計	1,554,528,216	2,324,708,802	

※日本財団チャリティー自販機からの寄付総額:284,230,705円(2024年度)

WEB site | 寄付者一覧

2024年4月～2025年3月にご寄付いただいた皆さまのお名前を、WEBサイトで紹介しています



ご寄付・ご支援のお願い

夢の貯金箱

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	1012106
支店名	口座名(漢字)
本店(001)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

基金のご案内



日本財団 子どもサポート 基金

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	2443179
支店名	口座名(漢字)
きよなみ支店(804)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

オンラインで寄付



バリアフリー基金

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	2443197
支店名	口座名(漢字)
きよなみ支店(804)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

オンラインで寄付



海と日本 プロジェクト 推進基金

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	2443184
支店名	口座名(漢字)
きよなみ支店(804)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

基金のご案内



災害復興支援 特別基金

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	1660782
支店名	口座名(漢字)
本店(001)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

オンラインで寄付



HEROs FUND

銀行振込で寄付〈銀行振り込み先〉

銀行名	口座番号
三菱UFJ銀行(0005)	2443190
支店名	口座名(漢字)
きよなみ支店(804)	公益財団法人日本財団
預金種別	口座名(カナ)
普通	ザイ)ニッポンザイダン

オンラインで寄付



LOVE POCKET FUND

オンライン・銀行振込で寄付

インターネット <https://love-pocket-fund.jp/>



日本財団 チャリティー自販機

申込・お問い合わせ

インターネット <https://www.nippon-foundation.or.jp/donation/charity>

お電話 ☎ 0120-892-139

[受付時間] 平日9:00～17:00



TOOTH FAIRY

申込・お問い合わせ

インターネット <https://www.tooth-fairy.jp/>

お電話 ☎ 0120-24-2471

[受付時間] 平日9:00～17:00



遺贈寄付

申込・お問い合わせ

インターネット <https://izo-kifu.jp/>

お電話 ☎ 0120-331-531

[受付時間] 平日9:00～17:00



領収証をご希望の場合は、
事前に領収証フォームへのご入力をお願いいたします。

皆様からのあたたかなご寄付をお願いいたします

